

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	基山町立基山中学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	前年度当初に立てた重点取組内容の多くは、成果指標に照らし合わせて、概ね達成できたと思われる。学校評価に関する生徒、保護者、職員へのアンケート結果も概ね良好で、学校評議員の方々も学校の取組に理解を示し、評価をいただいた。特に、学力向上においては対県比がほぼ全教科で1.00を上回るなど、落ち着いた学習に取り組める環境が整っていることで成果が現れてきたと感じる。しかし、業務改善や働き方改革の推進、学力向上への取り組みの共通理解、共通実践などには課題が見られる。今年度も学校長のリーダーシップの下、全職員が同じ方向を向き日々の教育活動に取り組む必要がある。特に本校の課題である特別支援教育と不登校支援に関しては、全職員で情報を共有し、チーム対応と外部との連携強化体制を図っていきたい。また、学力の向上に関しては、考える力を身に付けさせるために、校内研究を充実させ、これまでの統一した学びのスタイルに、思考操作を取り入れた授業実践に取り組んでいきたい。
------------------	---

2 学校教育目標	「きたえ やりぬき まなびあう」～気づき、考え、行動する生徒の育成を目指して～ 自分がやるべきことに気づき、試行錯誤を繰り返し、行動に移すことで、現代社会を生き抜く力を養う。
----------	--

3 本年度の 重点目標	①「基本的な生活習慣」の定着 ②「豊かな心」の育成 ③「生徒(会)活動」の充実 ④「確かな学力」の定着 ⑤「組織力」の強化	・落ち着いた学校生活 ・思いやりのある風土づくり ・活気に満ちた活動 ・考える力を身に付け、自ら学び続ける生徒の育成 ・学年の枠を超えたつながり、四輪駆動
----------------	---	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者		
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価				
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果		評価	意見や提言
●学力の向上	○生徒一人一人が、主体的に学習に取り組む授業づくりを目指す。	○4月県調査の正答率の対県比が全教科で1.00を上回る。	・授業の振り返りとともに重点を置いた授業展開を実施する。また、生徒が選択する場面を設定した授業実践に取り組む。 ・タブレットを活用した授業実践を推進する。	A	・2年生を対象とした県調査では正答率の対県比において、大きく上回る事ができた。全職員による授業見学会を行い、指導力の向上とタブレットの利活用にも努めた。今後も生徒が選択する場面を設定したり、課題を解決したりする授業実践に取り組んでいく。	A	・「自分の考えをもって話し合い活動に参加し、課題を解決したり自分の考えを広げたり深めたりしている」と回答した生徒は89%(2月調査)だった。教職員も常に授業改善に努め、生徒の主体性を引き出す授業づくりを目指して取り組んだ。	A	・学年別に多少の違いはあるものの、全教科で対県比を上回っており、取組の成果が出ているのではないかと落ち着いた態度で授業が行われており、今後も引き続き優れた実践を継続してほしい。	・学力向上コーディネーター ・研究主任
	●心身の教育	○学校評価アンケートの「特別の教科 道徳」に関する質問において、その取組や成果に肯定的な回答を行った教師、生徒の回答の割合が90%以上を目指す。	○学校評価アンケートの「特別の教科 道徳」に関する質問において、その取組や成果に肯定的な回答を行った教師、生徒の回答の割合が90%以上を目指す。	B	・「特別の教科 道徳」に関する質問においては、生徒の92%、教職員の87%が肯定的な回答を行った。人権・同和教育については、人権週間に充実させたり、学年が一体となって授業実践に取り組むなど、今後も人権尊重や豊かな心の育成に努めていく。	B	・2月調査でも「特別の教科 道徳」に関する質問への肯定的な回答は、生徒94%、教職員84%であり、課題が残った。来年度はソーシャルスキルトレーニングを導入し、状況に応じた振る舞いや互いを思いやる心を養っていく。	B	・人権週間の講話など充実した内容であった。PTAと連携した活動が縮小しており、今後、具体的取組についても再考する時期が来ているのではないかと、ソーシャルスキルトレーニングの導入を思いやる心を養っていく。	・道徳教育推進教師
●心の教育	○いじめの早期発見、早期対応に向けた取組を充実する。	○学校評価アンケートの「いじめを許さない雰囲気作りや教師の指導に関する質問において、肯定的な回答を行った教師、生徒の回答の割合が90%以上を目指す。	・生活アンケートの確実な実施、内容の把握、早期対応、早期指導を行う。 ・生徒指導体制や教育相談体制を充実させ、一人一人に寄り添った支援に取り組む。	A	・いじめや差別を許さない姿勢や思いやりをもつという質問においては、すべて95%を超えており、いじめを許さない雰囲気作りが浸透している。日々の些細なトラブルも早期発見、早期対応に努めており、教育相談の体制も充実している。教職員の親身な相談体制についても、生徒・保護者ともに高評価であった。	A	・2月調査でもいじめや差別を許さない姿勢や思いやりをもつという質問においてはすべて95%を超えていた。年2回の人権週間の取組も充実しており、生徒指導や教育相談の組織的な体制の基で、様々な事案に対応できている。	A	・学校内が落ち着いた雰囲気であり、生徒達が共に話し合う雰囲気ができていると感じる。	・生徒指導主事
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力を育成する。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上を目指す。 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒90%以上を目指す。	・生徒の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等を実施する。 ・学校行事や体験活動において、見通しと学びの振り返りを行う活動を行う。 ・教育活動全体で生徒指導の機能を生かし、生徒の良さを共有できる取組を実施する。	B	・良いところを認められていると感じている生徒は91%、夢や目標をもっている生徒は90%に届かなかった。全国調査(3年生対象)でも夢や目標をもっている生徒が63.7%と低い傾向にある。一方、学校行事や体験活動を通して自分が成長していると感じる生徒は93%であることから、学びの振り返りや、互いの頑張りを共有する取組を通して、自己肯定感や自己有用感を感じさせていく。	A	・2月調査では良いところを認められていると感じている生徒は96%、夢や目標をもっている生徒は92%と増加した。たくさんの学校行事や生徒会活動、学年独自の取組を通して生徒に出番を与え、活動を支援し、その都度振り返り活動を行ったことで、互いの頑張りを共有し認め合える雰囲気が醸成されてきている。	A	・授業では発言がよく出ており、自己肯定感も育っていると感じた。 ・夢や目標を持つ教育と指導を引き続き継続し、充実させてほしい。	・主幹教諭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減を進める。	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・学習や学校行事、部活動等で生徒が主体的に活躍できる場を多く設定し、活動の振り返りを行う場面を設定する。 ・生徒が学ぶ必要性や夢や目標を設定するための時間を確保する。	B	・夢や目標に向かって努力しているという質問に肯定的な回答をした生徒は88%であった。また、学校教育目標の浸透についても課題が見られた。生徒が活躍できる場を設けたり、夢や目標を設定し、何が必要かを考え、行動につなげるためのキャリア教育を充実させていく必要がある。	A	・夢や目標に向かって努力しているという質問に肯定的な回答をした生徒は92%であった。また、学校教育目標や行動目標の浸透にも改善が見られた。キャリア教育を通して自分の進路や将来に見通しをもたせる取組も充実させることができた。	A	・中学生で夢や目標をもつことは難しいと思うが、それに向かって努力している生徒が増えてきたことはうれしいことである。今後も様々な取組を通して生徒を育ててほしい。	・主幹教諭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○働き方改革を推進する。	○学校評価アンケートで「学年・校務分掌において、自分の役割を自覚し、他の職員と連携を図っている」と回答する職員の割合を90%以上を目指す。	・健康に良い食事をしているかという質問においては、95%の生徒が、「早寝早起き朝ごはん」に関する質問においては92%の保護者が肯定的な回答を行っている。給食の残量も少なく、学校全体で残さず食べる習慣が身に付いており、望ましい食習慣についての意識は高い。栄養教諭の存在を生かし、さらに食育を充実させ、食における自己管理能力を育成していきたい。	A	・健康に良い食事をしているかという質問においては、95%の生徒が、「早寝早起き朝ごはん」に関する質問においては92%の保護者が肯定的な回答を行っている。給食の残量も少なく、学校全体で残さず食べる習慣が身に付いており、望ましい食習慣についての意識は高い。栄養教諭の存在を生かし、さらに食育を充実させ、食における自己管理能力を育成していきたい。	A	・食に関する質問においては、保護者の回答が若干ポイントが下がったが、望ましい食習慣についての意識は高い。 ・栄養教諭がいることで、より専門的な知見で給食や食に関する情報発信ができた。実際に生徒は給食を楽しみにしており、給食委員の活動も充実してきている。	A	・給食メニューのアイデアがよいと思う。生徒も給食を楽しみにしている様子でありたい。	・栄養教諭 ・給食担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○働き方改革を推進する。	○学校評価アンケートで「学年・校務分掌において、自分の役割を自覚し、他の職員と連携を図っている」と回答する職員の割合を90%以上を目指す。	・県と町の部活動ガイドラインを遵守する。 ・行事等の精選を行い、ゆとりのもてる時間の確保をする。	B	・時間外在校等時間の上限遵守については達成できなかった。また、ワークバランスを保とうと意識しているかという質問に肯定的な回答をした職員も68%にとどまっている。 ・行事等の精選はもたらしたが、ゆとりの時間を確保するために校時や部活動終了時刻の見直しを進めていく。	B	・2月調査でも時間外在校時間の上限遵守とワークバランスへの意識の向上は必ずしもなかった。時間外在校等時間上限の遵守に向け、来年度に向けて校時と部活動終了時刻を大きく見直し、改善を図っていく予定である。	B	・部活動によっては保護者が時間外の見守りをされているところもあり、今後、保護者とのさらなる連携が望まれる。 ・業務改善や働き方改革は難しい課題だと感じる。	・教頭 ・主幹教諭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○働き方改革を推進する。	○学校評価アンケートで「学年・校務分掌において、自分の役割を自覚し、他の職員と連携を図っている」と回答する職員の割合を90%以上を目指す。	・定時退勤日の確実な実施を行う。 ・校務分掌を平均化し、チーム意識を醸成しながら計画的・組織的な業務遂行に努める。 ・教職員のメンタルヘルスチェックを実施する。	B	・定時退勤日の実施が進まなかった。定時で退勤できる環境を作り、管理職からの声掛けなどを行っていく必要がある。 ・学年や学校全体でチーム意識をもって業務遂行に努めることができた。この雰囲気を今後も醸成しながら対応にあたっていく。 ・メンタルチェックについても実施できた。	B	・定時退勤日の実施についても、校時の見直しと管理職からの声掛けで定時退勤の意識を高めていく。 ・学年や学校全体で様々な校務や行事、懸案事項について組織的に対応することができた。	B	・難しいところもあると思うが、まずは定時退勤日の環境作りから改善がすむとよいのだが。	・校長 ・教頭

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者		
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価				
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果		評価	意見や提言
○特別支援教育	○生徒の特性を理解するための職員の研修を深める。	○学校評価アンケートで「特別支援教育の重要性を理解し、インクルーシブ教育の実現に向けて取り組んでいる」と回答する職員を90%以上に上げる。	・夏季休業中に、研修会を開催する。 ・特別支援教育推進委員会が協議した内容を全員が共有できるよう連絡体制を確立し、個に応じた寄り添った指導・支援に努める。	A	・インクルーシブ教育の実現に向けての取組については教職員の97%が肯定的な回答を行った。研修会を通して最新の情報や対応の仕方を学んだり、個に応じた指導・支援に努めるために教職員全員が生徒の状況を把握できるような連絡体制づくりに努めた。	A	・インクルーシブ教育の実現に対する教職員の意識は高い。特別な支援が必要な生徒への理解と対応の仕方については全職員で共有し、全職員で関わろうとする体制ができている。	A	・生徒の個性や特性に応じた授業をされていると感じた。	・特別支援教育コーディネーター
○不登校支援	○家庭との信頼関係を築くために、綿密に連絡を取り合う。 ○専門機関との相談体制を計画に行う。	○学校評価アンケートで「いじめや不登校など配慮を要する生徒に対して、丁寧に対応している」と回答する職員を90%以上に上げる。	・SC、SSWを交えた教育相談部会を定例化し、多面的な支援の在り方を探る。 ・教育相談部会の内容を全職員で共通理解するための体制をシステム化する。	A	・定期的な外部機関を交えた教育相談部会をおこない、多面的な支援の在り方について協議を進め、その内容を共通理解するためのシステムも確立させた。生徒の92%が「先生は親身になって相談に対応している」と回答しており、生徒一人一人に寄り添った教育相談的関わりができている。	B	・生徒一人一人に寄り添った教育相談的関わりについて、生徒は約95%が肯定的な回答をしているが、保護者については2月の調査で若干ポイントが下がっている。学校での取組や生徒の様子をさまざまな形で家庭に伝えていく必要がある。	A	・専門機関と連携しながら、様々な背景や状況の生徒に合った手厚い支援をされていることが伝わってきた。生徒の96%が肯定的な回答をしていることから評価はAでよいのではないかと。	・教育相談担当

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・年度当初に立てた重点取組内容は、成果指標に照らし合わせると概ね達成できているが、2回目の保護者評価が若干下がっており、対策が必要である。今後も全職員であらゆる教育活動において共通理解を図りより良い学校づくりに努めていく。 ・本校の課題である特別支援教育と不登校支援については、チームで対応し、外部との連携も進んだ。対人関係や社会生活を営んでいくためのスキルを養う必要があるため、次年度は定期的にソーシャルスキルトレーニングを取り入れ、生徒にとって安心安全で楽しい学校生活を送るための一助としていく。 ・学力向上については、一定の成果を上げているが課題もある。校内研究の充実を図り、さらに授業改善を推し進め、生徒自身が自分の成長と学ぶ楽しさを時間できるような取組を行っていく。
--------------------	--